

国語

第一問 左は、今井むつみ、秋田喜美『言語の本質―ことばはどう生まれ、進化したか』第5章「言語の進化」の一節である（た

だし、一部改変した）。これを読んで、後の問いに答えよ。

オノマトペの音と意味のつながりは赤ちゃんでもわかる。それが赤ちゃんに、自分がこれから学んでいく母語について、大人が発する声にいかなる意味があるのか、その音にはどういう特徴があるのか、などのざっくりした直感的な理解を与えてくれる。しかし、言語はオノマトペだけでできているわけではない。語彙^{ごい}の大半は、「音に意味のない普通のことば」である。しかも、ことばが単独でバラバラに存在しているわけではなく、互いに関係づけられた巨大なシステムになっている。言語習得の問題を大局的に考えてみると、子どもはオノマトペ以外の膨大な数のことばを覚え、さらにそれらとシステムの中の他のことばの関係を発見し、最終的には自分で巨大な意味のシステムを構築していかなければならない。子どもは、アイコン性（音と意味の類似性）の支援なしに、どのように膨大な量の記号の体系を覚えていくことができるのだろうか？

本章では、なぜ言語進化の過程で多くのことばは「オノマトペ性」が薄まり、語彙の大部分は「恣意的な記号^Aの体系」となっているのかを考える。しかし、その考察をするための前^⑦тейとして、言語の身体性についてあらためて考えなければならない。これまで、オノマトペの持つ身体性について述べてきた。しかしすべてのオノマトペの身体性は、本当に直接に身体につながっているのだろうか？ 逆に、普通のことばには身体とのつながりは存在しないのだろうか？ これらの疑問を考えていくと、そもそも身体性とは何なのか、という疑問に行き着く。

言語の理解に身体性は必要か

言語には身体性があるのか。あるいは必要なのか。言語学では伝統的に、ことばに身体とのつながりはなく、その必要もない

①
という考えが主流だった。オノマトペはこの見解に反する。それどころかオノマトペの存在自体が、この見解へのチョウ戦である。この事実に対し伝統的な言語学では、オノマトペは言語の周辺にあり、取るに足らない例外であるという見解を示している。この考え方は初期（1990年以前）の人工知能（AI）研究でも共有されていた。この時代のAIでは、人間の知識の実装をする際の単位は単純な概念を表す記号であり、その記号を組み合わせればどんなに複雑な概念も作り出すことができると想定していた。

しかし、ひとたび言語を「意味を運ぶ媒体」と考え、意味がどのように始まるのかという問題を考えると、人間が話す言語が身体から分離された抽象的な記号から始まっているという考えは直感的に受け入れがたい。人間がコミュニケーションの道具としてそれぞれの意志や感情を他者に伝え、コミュニティの合意を形成するために大切な言語に用いられる記号の体系は、身体を経て得られる感覚、知覚、運動、感情などの情報に由来する意味を持つてははずである。しかし同時にことばは、身体性から離れて独自の意味を持ちえる。このような言語の二面性は、どのような道筋をたどれば可能になるのだろうか？

永遠のメリーゴーランド

この疑問は、認知科学において今なお未解決の難問とされている。筆者たちの探究のきっかけとなった「記号接地問題」である。

認知科学者のステイブン・ハルナツドは、人間が機械に記号を与えて問題解決をさせようとしたAIの記号アプローチを批判し、記号の意味を記号のみによって記述しつくすことは不可能であると指摘した。言語という記号体系が意味を持つためには、基本的な一群のことばの意味はどこかで感覚と接地（ground）していなければならない、というのが彼の論点である。彼はこの問題に具体的なイメージを与えるため、外国語を外国語の記号のみから学習する事態を例に挙げている。

あなたは中国語を学ぼうとするが、入手可能な情報源は中国語辞書（中国語を中国語で定義した辞書）しかないでしょう。

するとあなたは永遠に意味のない記号列の定義の間をさまよい続け、何かの「意味」には永遠にたどり着くことができないことになる。

まったく意味のわからない記号の意味を、他の、やはりまったく意味のわからない記号を使って理解することはできない。他方、中国語の語を母語の語を介して理解することは可能である。母語の語は「感覚に接地」しており、接地した語を通じて接地していない外国語の記号を理解することが可能なのである。

^C ハルナッドの提起した記号接地問題は、子どもが母語を学習する際に実際に起こる問題でもある。意味を知っていることばを一つも持たない子どもは、まったく意味のない記号を使って新たに記号を獲得することはできない。言語と感覚とのつながりをまったく知らない子どもが、辞書を用いて言語を学習することは不可能である。

一方で、成人はおよそ感覚に接地しているとは思えないような概念をも、あたかもそれが感覚と接地しているかのように言語的に表現することができる。実際、私たちの言語には目に見えない、^{D1} 物理的な実体を持たない抽象概念を表す語が多く含まれている。たとえば「愛」ということばを例に考えてみよう。「愛」という語が指し示す概念には、^{D1} 物理的な実体はない。「愛」ということばを知らない子どもは「愛」という感情を理解できないだろうか？

直感的に考えれば、子どもは少なくとも自分に向けられた「愛」については、「愛」という語を知らなくても理解できる。今度は、機械が「愛」を理解できるかを考えてみよう。たとえば自然言語処理システムに、「愛」の定義をことばで与えたら（たとえば、日本で出版されているすべての辞書の「愛」の語釈をすべてインプットするなど）、機械は「愛」の意味を理解できるだろうか？

ところで、これまで「身体的」ということばを頻繁に使ってきたが、そもそも「身体的」とはどういうことだろうか？^{D2} 実はこれは言語とは何かという問題を考える上で本質的な問題である。逆に考えると、オノマトペの意味は「身体的」なのだろう

か？

ハルナツドは、機械が辞書の定義だけでことばの意味を「理解」しようとするのは、一度も地面に接地することなく、「記号から記号への漂流」を続けるメリーゴーランドに乗っているようなものだ」と述べている。

E

D³

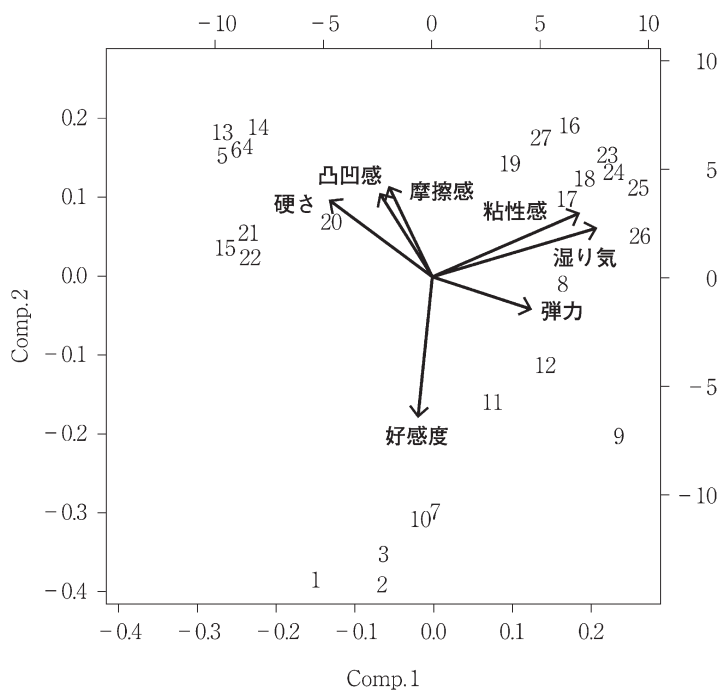
身体につながっていることばをあるボリュームで持っていれば、それらのことばを組み合わせることで、あるいはそれらのことばと対比させることで、直接の身体経験がなくても、身体に接地したものとして新たなことばを覚えていくことができるのである。

この考えは発達心理学の観点からしごく納得できるものであるが、言語習得のメカニズムを理解するために本当に大事なものは、これ以降の詳細である。ここからどのようにしたら身体から離れていけるのか。そのプロセスを詳細に理解したい。しかし、この点に関してのハルナツド自身の考察はここで終わってしまったので数々の疑問が残されている。最初の身体に接地されたことばの一群とはどういうことばなのだろうか？ そこから言語はどのように身体から離れていくのだろうか？ この二つは言語習得、ひいては言語進化にとってもっとも大事な問いである。

AIは記号接地問題を解決できるのか

身体性とは実は一筋縄でいかない概念なので、少しだけ概念の歴史的背景を紹介しつつ整理しておきたい。

AIで「身体性」という概念が注目されたのは、「記号主義」への反論としてであった。では「機械が身体性を持つ」ためにはどうしたらよいのだろうか？ 初期のAIには計算する「頭脳」しかなかった。コンピュータは身体を持たないから、身体につながりようがない。だから頭脳に身体を持たせればよい。視覚情報はとても重要だから、機械に目となるカメラをつけ、ビジュアルな情報を取得させる。あるいは、センサーつきの手足を持たせ、感覚情報、とくに触覚情報を取得させる。これが、一



図：日本語母語話者45人による
触覚オノマトペの質感評価

部のAIの研究者たちが推しすすめたロボット研究である。

ただ、一つ困ったことがある。感情の問題だ。感情を表す表現は、コミュニケーションの中でとても重要である。感情を直接に表現することは豊フである。オノマトペなら「ワクワク」「ドキドキ」「イライラ」「ムカムカ」「カーッ」、一般語では「うれしい」「悲しい」「楽しい」「怒る」など。また、感情を表すことばは、直接感情を表すいわゆる「感情語」に限らない。

桜の花びらが散っている様子を「ひらひら」や「はらはら」と表す。どちらも、よく耳にする表現である。しかし、「はらはら」には

F2

F1

と感じ、「さらさら」「べたべた」には嫌な印象を持つ。この「G1」はことばの意味の重要な一部である。

る。

G1

筆者は、たくさんの触覚のオノマトペを辞書から集め、大学生

にそれぞれのことばを硬さ、凹凸感、摩擦、弾力、粘性（粘り

いしけい

気）、湿り気、好感度という七つの軸で評価してもらい、主成分

エ

分析という統計手法を用いて、七つの軸がソウ互にどう関係して

いるかを見てみた。それを視覚化したのが、上図である。図中の

数字は、評定してもらった触覚に関するオノマトペを表している。

たとえば、1は「さらさら」、2は「すべすべ」、26は「ぬるぬる」、27は「ぎとぎと」である。

図を見るとわかるように、「好感度」は他の六つの評価軸と独立で、もつとも重みが大きい軸として現れた。つまり、好感度は、

G2

を表現することばの意味を理解する上で、単に付加的な情報というよりは、意味にとって欠かせない情報であること

がわかったのだ。

カメラやセンサーを通じて測定される

G3

を取得すれば、記号を身体に接地できるのだろうか？感情を直接セン

サーで測定することは難しそうだが、人の感情を脳活動や心拍、発汗などの物理的な指^④ヒヨウを用いて推測しようとする研究は
さかんに行われている。人間がこれらのことばを聞いたときの脳活動の値、心拍、発汗情報を単語ごとに与えたら、ロボット
(AI)は感情を経験することができ、ことばを身体に接地させることができるのか。

今はとりあえず、ことばの意味、とくに一部のオノマトペの意味においては、感情価が非常に大きな比重を占めることを心にとどめておこう。

問1 傍線部Aの説明として、最も適切なものを次から選べ。

1

- ① 身体を経て得られる触覚情報と感情に由来する意味を持つことばの体系
- ② AIが恣意的に作り出したことばを記号化した巨大な意味の体系
- ③ 感覚経験を写し取った音が記号によって表されることばの体系
- ④ 物理的な実体を持たないが、音と意味につながりのあることばの体系
- ⑤ それぞれに関係し幾通りにも組み合わせ可能になるようなことばの体系

問2

傍線部Bの説明として、最も適切なものを次から選べ。

2

- ① ことばには、身体から分離された独自の抽象的な意味を持つ側面と、身体感覚と直接つながりを持つ側面があるということ
- ② ことばには、感覚や知覚に由来する意味を持つ側面と、身体感覚とは直接つながりのない具体的な意味を持つ側面があるということ
- ③ ことばには、コミュニケーションの道具として感情を伝える側面と、コミュニティの合意を形成するために用いられる側面があるということ
- ④ ことばには、抽象的な意味を運ぶ媒体として機能する側面と、具体的な感情を描写する側面があるということ
- ⑤ ことばには、人間の知識を概念化した抽象的な側面と、オノマトペのように音を写し取ることによって形作られる側面があるということ

問3 傍線部Cの説明として、最も適切なものを次から選べ。

3

① 最初の身体に接地された基本的なことばの一群が何を指すか、そしてそれが言語進化の過程でどのように身体から離れていくのかが未解決であるということ

② 言語という記号体系に意味を付与するには、自然言語処理システムにより多くの語義をインプットし、記号を体系的に処理する必要があるということ

③ 感覚経験を写し取った音に意味を持たせるオノマトペの役割は言語進化の過程で失われるため、ことばを理解するにはそれ以外の基本的なことばが身体感覚と十分に接地している必要があるということ

④ 記号を別の記号で記述するだけではことばの意味がわからないので、新たな外国語を学ぶ際、記号の具体的な表象を得るため、母語の辞書を参考にする必要があるということ

⑤ ことばを身体感覚に全く接地していない別の記号で表現されただけでは意味がわからないので、一部のことばは身体感覚と接地する必要があるということ

問4 傍線部D1からD3のことばの例の組み合わせとして、最も適切なものを次から選べ。

4

D 1 D 2 D 3

① わびさび ソファ 寒い

② 時計 パソコン 戸口

③ 憂慮 ワンワン 寒い

④ わびさび ソファ 顔料

⑤ 眼鏡 パチン 山脈

問5 空欄Eに入る文章として、最も適切なものを次から選べ。

5

① 他方、永遠に続くメリーゴーランドに乗り続ける状態を回避するためにすべての記号が身体に直接つながっている必要はないとも言う。最初の一群のことがば身体に接地していればよい

② 他方、「愛」のような抽象概念を表す語ではなく、物理的な実体を伴う語の意味をより多くインプットする必要があるとも言う。そうすることで、永遠に続くメリーゴーランドの状態を回避することができるのである

③ しかし、記号から記号へ漂流する状態が長く続いたとしても、子どもはいつしか「愛」ということを理解するように、大人も言語を感覚的に使いこなす能力を有しているとも言う

④ 他方、永遠に続くメリーゴーランドに乗り続ける状態を回避するためにすべての記号を感覚的におよそ正しい意味で使うことができれば認知科学的には問題ないとも言う

⑤ そして、永遠に続くメリーゴーランドに乗り続ける状態を解明するために、身体と直接つながりのある最初の一群のことが何かを特定する必要があると指摘する

問6 空欄F1とF2に入る言葉の組み合わせとして、最も適切なものを次から選べ。

6

F1

F2

① どこか不安で、気をもむ感じ ここちわるい手触り

② どこか切ない、哀愁を帯びた感じ ここちよい手触り

③ どこか切ない、哀愁を帯びた感じ ここちわるい手触り

④ どこか不安で、気をもむ感じ なめらかな手触り

⑤ どこか優しく、柔和な感じ ここちよい手触り

問7 空欄G1からG3に入る言葉の組み合わせとして、最も適切なものを次から選べ。

7

G 1

G 2

G 3

① 感情価

触覚

感覚情報

② 触覚

好感度

オノマトペ

③ オノマトペ

感情価

感覚情報

④ 好感度

オノマトペ

感情価

⑤ 触覚

オノマトペ

好感度

問8 本文の内容と明らかに合致しないものを次から選べ。

8

① 言語はどんなに進化しても、人間が使い手である以上は完全に恣意的な記号の体系にはならないはずである

② 全体から見るとごく僅かではあるが、一部のことは身体感覚と直接つながるアイコン性が宿っており、それがハルナッドの主張する「記号接地をするための最初の一群のことは」を意味する

③ 赤ちゃんは母語の音や意味を少しずつ獲得し、学んだ語彙と身体感覚に接地していない語彙とを関連づけながら最終的には言語という膨大で抽象的な記号の体系を身につけていく必要がある

④ 人間は自身の感情や意志を他者に伝えるための道具として言語を用いているが、近年飛躍的に研究が進むAIにもカメラやセンサーを通して身体に接地した感覚情報を取得させることが可能である

⑤ オノマトペは赤ちゃんがこれから学ぶ母語に対する大まかな直感を与え、赤ちゃんがそこから抽象的な記号の体系に関連づけることを可能とする点で、言語の普遍的特徴を備えていると言える

問9 文中の二重傍線部⑦から⑩のカタカナ部分と同じ漢字を用いるものを次から選べ。

9

⑦ 前テイ

① 西高東テイの気圧

② 暫テイ的に処置する

③ 小学校の校テイで遊ぶ

④ 遠足の行テイを通知する

⑤ 改正案をテイ唱する

10

⑧ チヨウ戦

① チヨウ然とした振る舞い

② チヨウ発的な態度

③ 噴火の予チヨウ

④ 断チヨウの思い

⑤ いさかいをチヨウ停する

11

⑨ 豊フ

① 芝フが生える

② 内閣フ

③ 恩師のフ報に接する

④ 楽フを読む

⑤ フ国強兵

12

⑩ ソウ互

① 本のソウ稿を仕上げる

② 日本の未来をソウ肩に担う

③ 貧ソウな身なり

④ 小説の構ソウを練る

⑤ 大言ソウ語

13

⑪ 指ヒヨウ

① 論ヒヨウを書く

② 力士の土ヒヨウ入り

③ 意ヒヨウを突く作戦

④ 富士山のヒヨウ高

⑤ 賛成ヒヨウを投じる

第二問 左は、和泉悠『悪口ってなんだろう』の一節である（ただし、一部改変した）。これを読んで、後の問いに答えよ。

1 人を傷つけるから悪いのか

「悪口はどうして悪いの？」と聞かれたとき、もつともシンプルな答えは、「人を傷つけるから」というものでしょう。理由なく人を傷つけることは悪いことで、悪口も、足で蹴るといった身体的暴力と同じように人を傷つけるので、悪口は悪い、という発想です。

殴る、蹴るとは違い、悪口によって、血が出たり、顔がはれたりするわけではありませんが、場合によってはそれと同じくらい、あるいはそれ以上の精神的なダメージを受けることがあります。結局、苦痛というのは脳の活動によって生み出され、身体の痛みも心の痛みも、似たような脳の働きに由来すると考えられています。身体が痛いことが悪いなら、心が痛いことももちろん悪いわけです。

子どものとき、「そんなこと言われたら傷つくでしょ、嫌な気持ちになるでしょ」と、注意されたことはないでしょうか。あるいは、大きくなってからも、「他者の気持ちになって行動しなさい」と言い聞かされたことはないでしょうか。私たちは人を傷つけることを避けようとします。

「悪口が悪いのは人を傷つけるから」という考えは、とても常識的ですが、悪口の悪さをそれほどうまく説明できません。まず、悪口以外にも、人を傷つけることば、精神的なダメージを与えてしまう発言がたくさんあります。

A 1

、「残念な

がら不合格です」「私たち別れよう」のように、自分の期待や希望にそぐわないことを言われてしまうことは、誰にでもあります。

A 2

、それによって、ときには立ち直れないほどに深く傷ついてしまうことすらあるでしょう。

A 3

こうした発言は、もちろん悪口ではありません。

A 4

、ことばが人を傷つけるからといって、悪口になるとは限りま

せん。

このポイントを、論理なことばを使っていえば、「人を傷つけることは悪口の十分条件ではない」となります。

B

ここで十分条件の例をあげておきます。ある人が自分の卒業証書を受け取っていることは、その人が卒業したことの十分条件です。自分の卒業証書があることが、その人が卒業していることを十分に示しています。一方、出席日数が足りていることは、卒業の十分条件ではありません。たとえば、皆勤賞をもらっていても、卒業するための他の条件を満たしていないかもしれません。すべてのテストが0点だと、卒業させてもらえない学校が多いでしょう。

ついでに、必要条件も説明しておきます。一定の出席日数があることは、卒業の十分条件ではありませんが、必要条件です。ある程度は出席することが卒業するために必要なわけです。一方、卒業式に出席することは、卒業するために必要ではありません。風邪をひいて卒業式に出席できなくても、卒業できなくなるわけではありません。卒業式への出席は、卒業の必要条件ではないのです。

また、人を傷つけることが、悪口^Cの必要条件でないこともすぐに分かります。つまり、人を傷つけなくても悪口になる可能性があるのです。

言っていることが誰がどう聞いても悪口だが、言われた本人はまったく傷ついていない例を考えることは簡単です。今から架空の例を出してみます。よければ、みなさんも自分の例を考えてみてください。

Aさんは同じ部活の先輩のBさんが大好きだ。でも、AさんはBさんにつき合いたいとか、結婚したいとか、そのような願望があるわけではなく、アイドルやミュージシャンのファンのような感覚を持っている。AさんはとにかくBさんに会いたい、できるだけ一緒にいたい、と願っている。

一方、BさんはAさんのことを邪魔だと思っていて、「Aはうざい」「Aはきもい」としょっちゅう周りに伝えている。ときには、「きも。帰れよ」などとAさん本人に向かってさえ言っている。

Aさんはしかし、そのことが気にならない。むしろ、Bさんが自分のことを考えてくれていると思うと、嬉しくなる。目を合わせて、「うざい」とか言ってくれるのを楽しみにしている。

Bさんのことは、シンプルに悪口だと思う人が多いでしょう。しかし、Aさんは、それをまったく気にしていないどころか、むしろ喜んですらいます。ですので、人を傷つけなくてもことばは悪口になります。

ひよっとしたら、Aさんは傷ついていないので、Bさんの言っていることは悪口ではない、と考える人もいるかもしれませんが、では、次のような例はどうでしょうか。

人間は、虐待といった強烈なストレスが与えられたとき、自分を守るために身体から心を切り離すことがあります。ぽーっとする、夢の中にいる気がする、自分の体験や感情を覚えていない、感覚が麻痺^{まひ}する、といった状態になります。たとえば、すごくいじめられている人が、一種の自己防衛^⑦として、何を言われても何も感じなくなってしまうとします。感覚が麻痺しているのだから、その人に何を言っても悪口にはならないのでしょうか。そんなことはないでしょう。たとえば、そこでたまたま傷ついていたとしても、痛みも何も感じなかったとしても、悪口は悪口だと私たちは考えます。

むしろ、人が傷つくかどうかや、不快に思うかどうか、という基準ばかりに焦点を当てることで不都合も生じます。いじめられている側が、「やめろバカ！」と、多少乱暴なことばを使って、自分の身を守ろうとします。そのとき、そのことばばかりは他人に不快感を与えるからやめましょう、などといじめられている側を注意したとすると、これほど不公平なことばはないでしょう。

似たようなことは、より広い社会におけるやりとりの中にも見られます。女性や黒人といった、差別されている人たちが、差別的な社会の仕組みに対して批判の声をあげたとき、その批判の内容ではなく、ことばづかいや言い方に論点をそらせて、黙らせようとする反応があります。「乱暴な発言なので怖いです」「そんな言い方では誰もキョウウ力^⑧してくれませんか」といったものです。そうした行為は、「トーン・ポリシング^D」(tone policing 口調の取り締まり)と呼ばれています。

ぴしっと厳しく叱られたり、批判されたりしたら、言われた側は、たとえ批判されるだけの十分な理由があると自覚していても、不快に感じたり、居心地が悪くなったりするものです。ことばの悪さが、不快さや痛みのような感覚だけですべて説明されてしまうなら、まっとうな説教ですら悪口になってしまいますが、それはおかしい結論です。

したがって、人を傷つけるから悪口は悪いという発想で、悪口を理解することはできないのです。

2 悪意があるから悪いのか

悪口がどうして悪いのか説明しようとするもうひとつの常識的考えは、悪意のせいで悪いのだ、言う側の心の問題だ、というものです。私たちは、誰かを傷つけてやろう、嫌な気分にならせてやろうと思い、あるいはその人をバカにして、軽蔑して、悪口を言うことが確かにあります。そして、そのように人の悪意に触れることは、辛くて悲しいことです。悪口が悪いのは、さらには、悪口で傷ついてしまうのは、言う側の悪意が理由だ、という発想です。

悪意を理由にするアイデアも、日常的な感覚に近いですが、あまり役に立ちません。先ほどと同じように、悪意は悪口の必要条件でも十分条件でもないからです。

^E悪意がなくても、悪口を言うことができます。つまり、悪意は悪口の必要条件ではありません。たとえば、子どもの無邪気なことばはどうでしょうか。私も、三歳児とか五歳児といった小さな子どもに、「きらい」「くさい」などと言われることがあります。子どもがなぜそんなことを言うかという、言われた私の反応が面白いからです。子どもたちは、本当に屈託なく、にこにこそのようなことを言ってきます。遊んでいるだけで、心の底から、楽しい、うきうきとした気分で言うので、悪意と呼べるほどのものはありません。しかし、私はそんなことを言われると嫌なので、「そんなこと言わないで」と言います（やめてくれるわけではありません）。

周りのことがよく分かっていない、小さな子どもは別の話で、関係ないだろう、と思われるかもしれませんが、しかし、子どものように無邪気に、あるいは子どものように何も考えずに、悪口を言ってしまう大人もたくさんいることもみんな知っています。たとえば、いじめの加害者の中には、本当に自分がいじめているという自覚がない人がいるでしょう。「うざっ」や「きもっ」などと言うとしても、「いじめ」ではなく「いじっているだけ」、なんだったら喜ばせている、と考えているかもしれません。

そのような場合、発言をする側に悪意はありませんが、私たちは悪口を言っていると考えます。つまり、悪口を言うために悪

意を持っている必要はないのです。

単なる悪口を超えています。差別発言の中にも同じような例があります。男の人が他の人よりも偉いとされる、男尊女卑的な社会や、白人の方が黒人やアジア人などより偉いとされる、白人シ^⑦上主義的な社会に生まれ育った人が、女性や黒人に対して、あなどるような、バカにするようなことを言うときがあります。たとえば、「この人は女性だから（黒人だから）医者には向いていない」といった発言です。

発言を通じて、言った人はひどい偏見を持っているんだな、ということは分かりますが、その人に悪意があるかどうかは分かりません。むしろ、親切心で、そのようなことを言ったのかもしれませんが。その人は子どものときから、「女の人は医者にならない」と何度も（間違ったことを）教わったので、それを単に繰り返しているだけかもしれません。「黒豆をふくら煮るコツ」を伝えるのと同じくらいの気持ちで言っているのかもしれませんが。

しかし、差別的発言はその意図がどうあれ差別的発言です。どういう気持ちで言ったのか、ということよりも、誰がどのような場面で何を言ったのか、ということの方が、発言の評価にとって大事です。

F

Cさんには嫌いな部活の先輩Dさんがいる。しかし、Dさんは他の部員からとても尊敬されているため、Cさんが陰口を言っても、周りからは信じられないといった顔をされてしまう。Cさんは仕方がないので、「うざい！ しね！」と言う代わりに、精一杯の皮肉をこめて「あの人ほんとにいい人！」と言うことに決めている。結果、Cさんは「ほんといい人！」を連発している。そのとき、周りの人には一切気づかれないが、心の中では「しね！」と悪態をついていることになるので、Cさんはちよつとスッキリしている。

このとき、もちろんCさんの発言は悪口ではありません。「いい人！」と言っているだけからです。しかし、Cさんは悪気
ありありでそう言っています。ですので、悪意があることは、発言を悪口にするのに十分ではないのです。

もし悪意が発言を悪くする原因ならば、「悪気はなかった」という言い訳ひとつで、どのような発言も許されてしまいます。
「悪気はなかった」に説得力がないのは、これが白々しい嘘だからではなく、悪気があるうがなからうが、発言に問題がある
きはある、と私たちが考えるからです。

意図の有無はもちろん行為の罪深さに影響を与えると私たちは考えます。たとえば、「過失傷害罪」とは、そういうつもりは
なかったけれども、不注意などで人を傷つけてしまったときに当てはまる罪です。一方、「傷害罪」の方は、人を傷つけてや
ろという意図があるときに当てはまります。そして、過失傷害罪は傷害罪よりも軽い罪だとされています。しかし、わざとで
ないからといって、それが罪でなくなるわけではありません。事故でケガをさせられた人に向かって、「よかったねーわざとじゃ
なかったんだって！」という人はいないのに、不適切な発言の後に、「そういうつもりはなかった」と言う人が絶えないのは、
おかしいことです。

悪口に限らず、ことばを使って何かがなされる時、私たちは隠された意図や本当の動機の上に焦点を当てるわけではありま
せん。^G 私たちの発言にはおおよその型があり、その型にそって解釈が与えられます。お寿司やさんに電話をして「お寿司四人前、
サビ抜きでお願いします」と言ったら、それはお寿司を「注文する」という行為をしています。お寿司が届いた後、「いや、演
劇部の練習で、度胸をつけようと思っただけなんです」などと言っても、こっぴどく叱られるでしょう。その発言は、意図がど
うあれ、注文したと解釈されるものだからです。

というわけで、意図や動機など、話し手の心の動きだけに注目しても、悪口がどうして悪いのかやはり説明できないのです。

3 人のランクを下げるから悪い

では悪口はどうして悪いのでしょうか。ここから、社会の中での立場という「ランク」の概念から悪口について考えていきま

す。この節では、悪口は人の「ランク」に働きかける、という本書の大事な主張を簡単にまとめます。

悪口を言われて困ることのひとつは、「なめられる」ことです。もちろん、悪口を言ってくる人は、標的のことをなめているからそうするわけですが、それ以上に、他の人からもなめられるようになる、というのが問題になります。

たとえば、学校の教室で、周りに人がたくさんいるとき、EさんがFさんから「メガネくん」と
H1
な感じで呼ばれたとします。Eさんはちょっと嫌だなと思ったけど、特に何も言いませんでした。このとき、Fさん以外の周りの人たちも、もし「メガネくん」の呼び方が気に入ったら、自分たちもEさんをそう呼ぶようになるでしょう。一度試してみて大丈夫だったことは、二度、三度やっても大丈夫なはずだからです。

一度悪口を言われてそれをスルーすると、その悪口は言ってもよいということになり、他の人からも同じことを言われてしまいます。さらには、こいつはそういう
H2
扱いをしていいのだ、適当に扱っていいやつなんだ、というふうに認定されてしまいます。悪口はそれが怖いのです。

山の奥深くで独り、穴に向かって「王様の耳はロバの耳ー！」と叫ぶだけでは、悪口を言っているようには聞こえません。悪口は社会の中で言うものです。部活やクラスルームといった、小さなコミュニティだとしても、複数の人間が関わり合って暮らすひとつの社会です。その社会に与える悪影響から悪口を見ているのがよいと私は考えます。「王様の耳はロバの耳」のおはなしも、穴に向かって叫んだことばが、うわさとして広まることによって物語が^(注)テン開するのです。

さて、悪口でよく使われる「きもい」や「うざい」ということばは、比較をするための、「いい」で終わることばの仲間（形容詞）です。たとえば、「高い」なら「AがBより高い」（比較級）「Cが一番高い」（最上級）といったように使われます。同じように、誰かが誰か「よりうざい」や、誰かが「一番うざい」と言うことができます。

「高い」とか「低い」はそれ自体ニュートラルなことばです。高ければ良い、ということはないですし、低ければ悪い、というところはありません（中年になると、健康診断で「尿酸値」が高いとすごくイヤですが、「給与」が高いのはすごく嬉しいものです）。

一方、「きもい」は「気持ちが悪い」を、「うざい」は「うざったい」を^(注)シヨウ略したもので、どちらも^(注)きもい
H3

な評価を表すことばです。ですので、「うざい」人は「うざくない」人よりも「良くない」「悪い」あるいは「劣っている」ということになります。

さらに、「うざい」を使う人は、普通の場合、自分のことは「うざくない」と思っているのでしょう。すると、誰かに「うざい」といった悪口を言うことは、標的は自分より劣っているのだ（自分は標的より優れているのだ）、と言っていることになります。優劣という順番は、「上下」のランキングとしても理解することができます。悪口を言うことは、自分が暮らすコミュニティのランキングの中で、自分の方が標的よりも上位に立っているのだ、標的はより下位にいるのだ、ということを表明します。悪口は、一般的に、標的が自分よりもランクが下だと言っていることです。これが、本書でのメインの主張になります。

自分が上、標的が下、というメッセージが悪口の基本の形になるため、いわゆる「人間以下」とみなされる、他の生き物を指すことばが頻繁に使われます。たとえば、部活をやっている、足が遅い人に向かって「なめくじ」とか、弱いチームを「ザコ」と呼ぶことを考えてみましょう。

なめくじはもちろん歩みがとても遅いわけですが、移動が遅いものならば、オーストラリア大陸だって少しずつ移動しているわけですから、標的に向かって「オーストラリア大陸か！」と言ってもいいわけです。オーストラリア大陸の方が、なめくじよりも移動速度は遅いのですから、むしろより適切なはずです。

しかし、それだと悪口に聞こえません。私たちは普通、オーストラリア大陸が人間より上か下か意識したことはないでしょう。しかし、なめくじはなめなめした「下等な」生物とみなされています。なめくじと人間に同等の価値があると思う人はいないでしょう。

また、「ザコ」は「雑魚」^{ざし}のことです。つまり、いろいろな魚を指しています。雑多な魚、取るに足らない、名前もない小魚扱いをしている、ということになります。

もうひとつ大事なものは、悪口には、「うつつしい」「なめくじのように足が遅い」といった具体的な内容があるわけですが、ランクを下げるという観点からは、その内容そのものがそれほど大事というわけではない点です。標的は人間ですので、そもそ

も、なめくじでもなければ、おさかなでもありません。しかし、当てはまらないから問題ない、とは誰も思わないでしょう。そのような人を軽んじた表現を使って標的を呼ぶという事実そのものが、H 4な影響を与えるわけです。おさかな扱いしても標的がヘラヘラしている、また周りが何も言わないなら、他の人も標的をそういう扱いにしてもよいだろう、ということが導かれてしまうのです。

悪口は、標的のランクを下げ、社会的な立ち位置をあやうくします。その結果、標的となった人物には不都合が生じ、なにかと生きづらくなります。だから悪口は嫌なことであり、不快なことであり、屈辱的なことでもあるのです。そして悪口が悪いのは、そのような序列を作り出し、誰かを劣った存在として取り扱うことは悪いことだからです。

問 1 空欄 A 1 から A 4 に入る言葉の組み合わせとして、最も適切なものを次から選べ。

14

- | | A 1 | A 2 | A 3 | A 4 |
|---|------|------|------|------|
| ① | たとえば | そして | ですので | しかし |
| ② | たとえば | そして | しかし | ですので |
| ③ | たとえば | ですので | そして | しかし |
| ④ | そして | しかし | ですので | たとえば |
| ⑤ | そして | しかし | たとえば | ですので |

問2

傍線部BおよびCについて、人を傷つけることが悪口の十分条件でも必要条件でもないことの説明として、最も適切なものを次から選べ。

15

- ① 悪口ではないことが人を傷つけることはないので、人を傷つけることは悪口の十分条件ではなく、また人を傷つけることばでも悪口とは見なされないので、人を傷つけることは悪口の必要条件でもない
- ② 悪口と見なされることばでも人を傷つけないことはあるので、人を傷つけることは悪口の十分条件ではなく、また人を傷つけることばでも悪口と見なされることがあるので、人を傷つけることは悪口の必要条件でもない
- ③ 悪口ではないことが人を傷つけることはあるので、人を傷つけることは悪口の十分条件ではなく、また人を傷つけないことばでも悪口と見なされることがあるので、人を傷つけることは悪口の必要条件でもない
- ④ 人を傷つけないことばでも悪口と見なされることがあるので、人を傷つけることは悪口の十分条件ではなく、また悪口ではないことばが人を傷つけることはないので、人を傷つけることは悪口の必要条件でもない
- ⑤ どんなことばでも人を傷つける可能性はあるので、人を傷つけることは悪口の十分条件ではなく、また悪口と見なされることばが人を傷つけることはないので、人を傷つけることは悪口の必要条件でもない

問3 傍線部Dについて、トーン・ポリッシングの例として、最も適切なものを次から選べ。

16

① 差別の加害者に「君はいかにも差別主義者っぽい口調で話すね」と皮肉を言った被害者に対して、「相手の行動そのものではなく相手の口調に焦点を当てて相手を黙らせようとするのは不公平だ」と批判すること

② 差別の加害者に「いい加減にしねえとてめえぶん殴るぞ!」と怒鳴った被害者に対して、「暴力に訴えるのはやめてください、怖いです」と言うこと

③ 差別の加害者に「あんたは人間というよりもむしろ動物だな」と批判した被害者に対して、「人間はみんなそもそも動物だろう」と屁理屈^{へりくつ}をこねること

④ 差別の加害者に「あなたのしたことは差別だ」と抗議した被害者に対して、「あなただって以前、差別をしていたじゃないか」と言って論点をそらすこと

⑤ 差別の加害者に「俺はお前を絶対に許さない」と発言した被害者に対して、「人のことをお前呼びするような人の話なんて誰も真剣に聞いてくれないよ」と応答すること

問4 傍線部Eの説明として、最も適切なものを次から選べ。

17

① ことばに悪意が込められていないということは、そのことばが悪口ではないことを示すということ

② 相手を傷つけることにはならないが、相手を傷つけようという意図はもっていることがあるということ

③ ことばを話す際に悪意をもっていないということは、そのことばが悪口であることを示すということ

④ 相手に苦痛を与えるつもりはないが、悪口と私たちが見なすようなことばを話すことがあるということ

⑤ 相手に好意を抱いているのだが、相手に素直に「好きだ」と言うことができないことがあるということ

問5

空欄Fの段落には次のaからeの文が入る。その順番として、最も適切なものを次から選べ。

18

a つまり、悪意は悪口の十分条件でもないのです。

b 次のような例を考えてください。

c 悪意をどれだけ込めても、それが誰にも伝わらないようなことばを使う限り、発言は悪口にはなりません。

d 悪意は悪口にとって必要でないことを確認しました。

e またその一方で、悪意だけでは、悪口には届きません。

① d ↓ a ↓ e ↓ c ↓ b

② d ↓ c ↓ a ↓ e ↓ b

③ d ↓ e ↓ c ↓ a ↓ b

④ e ↓ a ↓ c ↓ d ↓ b

⑤ e ↓ d ↓ a ↓ c ↓ b

問6 傍線部Gの例として、最も適切なものを次から選べ。

19

① カラオケボックスから帰ってきた息子が「今日は夕飯いらない」とかすれた声で言ったとしたら、そのことは、息子がカラオケボックスで大声で繰り返し熱唱してきたことを示すものと解釈される

② 最近少し体重が増えたことを気にしていた友人に対して、そのことを知らずに冗談で「最近太った？」と発言し、その結果友人が不快な思いをした場合には、その発言は人を不快にするものと解釈される

③ ある女性が引越し作業を手伝ってくれた近所の人々に「ほんまおおきに、はばかりさんどした」と発言した場合に、そのことばづかいからその人の出身は京都であると推測される

④ ボートを購入した父親が、そのボートを前にして、家族に対して「私はこのボートをセンチメンタル・ラビット号と名付ける」と発言したら、その発言はそのボートを命名するものと解釈される

⑤ 上司が仕事で失敗して落ち込んでいる部下に、励ますことを意図して「また頑張ろう」と声をかけたところ、既に最大限頑張っていた部下が泣き出してしまった場合に、上司の発言は思慮に欠けたものと解釈される

問7 空欄H1からH4に入る言葉の組み合わせとして、最も適切なものを次から選べ。

20

	H 1	H 2	H 3	H 4
①	失礼	軽い	否定的	社会的
②	軽快	丁重な	中立的	壊滅的
③	侮辱的	雑な	序列的	主観的
④	慇懃 ^{いんぎん}	ひどい	社会的	一般的
⑤	無礼	高慢な	階級的	屈辱的

問 8

著者は悪口の悪さについて最終的にどのように結論づけているか。最も適切なものを次から選べ。

21

- ① 悪口を言われると、標的となった人は、悪口を言った本人から格下の人間として見下されることになるが、本人からそのように見下されることは不快なことであるがゆえに、悪口は悪い
- ② 悪口の悪さは人の心を傷つける点にあるが、悪口が人の心を傷つけるのは、悪口が標的の社会的なランクを下げて標的を貧困に陥らせるからであり、よって悪口の悪さは正確にはランクを下げる点にある
- ③ 悪口を言うことは、その標的とされる人を人間よりも下等な生物と見なすことになるが、しかし本来その標的の人は同じ人間なのだから、悪口は悪い
- ④ 他人から悪意を向けられることは嫌なことであり、そして悪口はその社会的な影響力によって人々の悪意を標的となる人に向けさせることでその人に嫌な思いをさせるから、悪口は悪い
- ⑤ 相手の社会的な地位を脅かし、格下の存在として扱うことは悪いことであるが、悪口を言うということはまさしくそのようなことをすることなので、悪口は悪い

問9 文中の二重傍線部⑦から⑩のカタカナ部分と同じ漢字を用いるものを次から選べ。

22

⑦ 防エイ

① エイ世中立国

② 経エイ学の授業

③ 人工エイ星を打ち上げる

④ エイ敏な感覚を持つ

⑤ 世論を反エイした政策

23

⑧ キヨウ力

① 相手にキヨウ感する

② キヨウ楽にふける

③ 世界キヨウ慌の原因

④ キヨウ調性がない人

⑤ 故キヨウを懐かしむ

24

⑨ シ上

① シ急の対応を頼む

② 自由シ場経済

③ ウサギをシ育する

④ 問題に真シに向き合う

⑤ 人を容シで判断する

25

⑩ テン開

① 道理はテン地を貫く

② 物語の起承テン結

③ 都市が発テンする

④ イスラム教の聖テン

⑤ ライトがテン滅する

26

⑪ ショウ略

① ショウ子化が加速する

② 厚生労働ショウで働く

③ 実行には時期ショウ早だ

④ ショウ像権を侵害する

⑤ 体力をショウ耗する